

かながわ 明日すりーと 21

ビーチバレー

体育館などインドアで行われるバレーボールと違い、動きにくい砂上を舞台とする2人制のビーチバレーボール。女子の日本ランク3位(4月26日現在)に位置する、大和市出身の坂口由里香選手が躍動する姿には、見る者を引き付ける何かがある。

5月下旬に開催国杯を懸けて戦った五輪代表決定戦は惜しくも準優勝に終わったが、同大会最小の165センチの身長以上に絶大な存在感を放っていた。大柄な選手のブロックをかいくぐって強弱に打ち分けるスパイク、相手が届かない位置にボールを「置く」ような正確性を極めた攻撃に加え、高い俊敏性を生かした攻守の切り替えの速さという持ち味を存分に披露した。体格で劣る大型選手に技術とアイデア、テンポの早いプレーで対抗する戦いぶりは、他の競技でも手本となるものだ。

湘南台高時代に出会った競技は、あくまで「6人制」の強化の一環だった。高い身体能力がビーチで発揮され、高3時に全国大会5位に入ってから手応えをつかむ。短大卒業後は信用金庫の窓口担当として勤務したこともあったが、実力をつけるに伴ってプロへと一本化した。Vリーグでも活躍した選手がビーチに転向することが多いなかでは異例の経歴であり、日本ランク3位は、人知れず重ねてきた努力の証でもある。

2019年からは世界ツアーにも参戦し10数カ国を転戦する日々。その合間に楽しめるように、JAグループ神奈川から足柄茶と箱根山麓紅茶のラングドシャが贈られると「おいしくいただきます」とほほ笑んだ。「若い選手がビーチをやってみたいと思えるように、小さな私でも世界と戦えることを証明したい」という決意が、一つ一つのプレーに込められている。



*今号は、オンラインによるリモート取材で記事をまとめました。

JAグループ神奈川は、
神奈川のアスリートを応援しています。



坂口由里香(26)

*
大和市出身